

# とまこまいスケートまつりの歴史



## スケートまつりの始まり

★昭和のはじめ頃に昔の樽前山神社横の沼リンク（現在矢代町）で、スケート協会が納会の時期に行っていた「氷上カーニバル」と言われており、昭和20年代まで大いに賑わいが続きました。

★その後、伝統あるスケートを市民的なものに盛り上げようと機運が高まり、スポーツを通じて健康でたくましい心と体づくりを目的に1966年（S41）全国初の「スポーツ都市宣言」を行ないました。



## スケートまつりの歴史

★1967年（S42）第1回スケートまつりは2月3日～5日に開催された。旧王子スケートセンター、旧王子野球場横の広場を会場に、ドラム缶50個によるしばれ焼きに人気が集まり、世界アイスホッケー出場者の壮行試合や氷像展、氷上カーニバルなどが行われた。



★1968年（S43）第2回スケートまつりは会場を苫小牧ハイランドスケートセンターに移して、2月3日～4日の2日間で開催された。自衛隊の協力による雪像作りが始まり「ハイランド城」の雪像が完成し、しばれ焼き、氷像展、氷上カーニバルが継続され、氷上花火大会で冬空に彩が映し出された。



★1971年（S46）第5回スケートまつりは、プレ五輪が2月に行われたため、スケートまつりは1月30日から2日間行われ、チビっ子アイスホッケーが初めて開催された。

★1973年（S48）第7回スケートまつりは、2月10日から2日間開催され、第1回北海道・ソ連極東親善スポーツ大会が行われた。



★1974年（S49）第8回スケートまつりは自衛隊制作の大雪像「勇払千人同心像」が人気を集めた。

★1978年（S53）第12回スケートまつりは2月10日から3日間開催され、自衛隊制作の大雪像やジュニアボブスレーコース、市民参加による小雪像が完成し、中学・高校アイスホッケー新人戦、チビっ子アイスホッケーやスケート大会、氷上カーニバル、氷上花火大会が繰広げられた。





★1983年（S58）第17回スケートまつりは2月9日から2日間開催され、姉妹都市のネーピア市長夫妻、八王子市長を迎え、雪像「宇宙人E・T」が人気を集めた。



★1986年（S61）第20回スケートまつりは2月8日から4日間のロングラン開催となり、八王子、日光市からの来賓を迎え、ふるさと民謡まつり、市民雪像コンテスト、イルミネーションの彩が雪を照らしロマンチックな光景が記念まつりに華を沿えた。

★1987年（S62）第21回スケートまつりは開基115年市制施行40年開港25年を記念して、2月11日から4日間開催された。苫小牧・八戸チビッコアイスホッケー交歓大会や大雪像「白雪姫と7人の小人」や雪の歌謡オンステージなどが行われた。



★1996年（H8）第30回スケートまつりは2月1日から3日間開催され、29万人の人出で賑わった。名物となった「しばれ焼き」、中学校スケート大会、アイスホッケー・デー、氷上カーニバル、ちびっ子すべり台、冬華花火大会など、多彩なプログラムとなり、冬まつりが市民に定着するものとなった。



★2004年（H16）第38回スケートまつりは2月6日から3日間会場を若草中央公園に移して開催されました。自衛隊によるちびっ子すべり台が設置され、市民ミニ雪像や氷彫刻展やちびっ子広場、馬そり、しばれ焼き、イルミネーションなどが行われ、冬華花火大会は漁港区西側広場に移り打ち上げられました。



★2006年（H18）第40回スケートまつりは2月10日から3日間開催され、ちびっ子すべり台、氷彫刻、JC雪中パラダイスイベントや冬華花火大会で冬のまつりが若草会場で定着してきた。



★2008年（H20）第42回スケートまつりからは2月第1週の土・日曜日の2日間となり、2月9・10日開催となる。



★2016年（H28）第50回スケートまつりは2月6日から2日間開催される。記念事業としてまつり会場には、市民雪像の復活、雪合戦や灯りのオブジェなど歓喜があふれ、金メダリスト清水宏保スケート教室や講演会などが開催される。



**とまこまいスケートまつり実行委員会**